6-13　実践協力校における実践
事例⑬　茅ヶ崎市立緑が浜小学校
6年生　総合的な学習の時間

ポイントになる主な学びのプロセス

- **自分の身の周りのできごとに関心をもつ**
- **他者の考えを聞き、自分の考えを再構築する**

Ⅰ　指導計画

1　活動（行事）名　茅ヶ崎市立緑が浜小学校　総合的な学習の時間「地球環境のために～自分たちができること～」

2　活動（行事）の目標　緑が浜小学校　学校教育目標「よく遊び　じっくり学び　正しく選ぶ子」

・現在の地球環境を知った上で、環境のために何をすることよいかを考え、自分たちにできることを見つけ、行動する。

【目指す子どもの姿】
・環境問題について、身近なことから自分のこととして捉えようとする姿。
・自分たちが行動を起こす上で、合意形成を図りながら計画し、実践していく姿。

3　年間（単元）を通した指導計画（全25時間扱い）

時間	ねらい（◇）・学習内容（◆）
(10)	わたしたちにできること（国語扱い１０時間）
2	◇６年生として学校の中で変えたい、変えていかなければならないところはどこかを考える。①環境・ゴミ　②節水・節電　③あいさつ ◆課題の確認をする。世の中に対して、個人・クラスの疑問をもつ。
3	◇課題を周知させ、よいことであっても、行動を起こすには、相手（他学年）への理解も必要であることや、知ってもらうには、その背景やこちらの想いをうまく伝えることも必要だと気付く。 ◆テーマごとにポスターを作製（上記①②③）する。
13	◇計画しても案でつぶれる状況から、**自分の考えを再構築する**。また、計画することの難しさを感じ、より深く考え計画する。 ◆環境問題をより詳しく調べる。 ◆周知する前に自分たちが行動する。 ①ビーチクリーン　②グリーン計画　③裏庭活性化　④環境コーナー設置
5	◇各プロジェクトで計画したことを実践する。また、活動して終わりではなく、次の課題に目を向け行動する。 ◇**自分の課題として問題を捉え**、解決（緩和）に向けた話し合いをする。 ◆ビーチクリーンから感じたことをもとに、自分たちの身の周りの環境はどうなっているのかを考える。 ◆実践したことをもとに資料を作成し、環境コーナーに情報を集める。
2	◇まとめ、振り返りの活動として、自分たちの考えを伝える。また、終わりではなく、今後につなげていく方法を考える。 ◆環境コーナーにて、自分たちの思いや行動を伝える。 ①環境コーナー案内役の配置　②在校生への伝達（卒業に向けた取組み）

ポイント1

自分の身の周りのできごとに関心を持ち、課題を見つける。
学校の中から変えることができるか、自分の身近なことに注目することで、自分のこととして捉えやすくする。

ポイント2

「環境問題」について多角的に考えるために、いろいろな意見があることを再認識する。それらの意見を踏まえ、自分の考えを再構築する。

ポイント3

どのように発信、今後につなげていくことができるか、他者の意見を聞き、合意形成をはかる場面を設定する。

Ⅱ　政治的教養を育むためのポイント

【年間（単元）を通して身に付けさせたい力】
・自分自身で課題を見つけ、何を行うことができるのかという課題設定能力、課題解決能力。
・他者と話し合うことで、合意形成を図りながら物事を決定し、行動する力。

本実践における「政治的教養を育む教育」につながる活動展開例

【活動①『自分たちで変えられるところはどこだろう？（学校の節電活動）』】　**課題について考える活動**

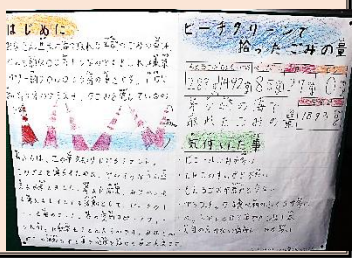
６年生として学校の中を変えたい、変えていかなければならないことを話し合う活動を行った。「私、これから毎日、学校中の電気を消してから帰る」と一人の子どもが自主的に実践をすすめた。すると、活動をするうちに、「この廊下は電気を消さないで欲しい」と少し強く言われてしまった。「よいことをしているのに、なぜ・・・？」と子どもたちは納得のいかない表情をしていた。子どもたちの中で、「よいことをしたのになぜ（怒られるの）？」という葛藤が膨らんでいる様子があったので、このことについて授業で取り扱うこととした。

授業では、「よいことをしているのに、消さないでほしいと言われてしまったのはなぜだろう？」ということについて、考えた。「電気を消してはいけない理由はなんだろう？」「あの教室は、廊下の電気を消すと、少し見づらいかもね」いろいろな立場に立って考えをめぐらすことで、**「自分の考えもあるけれど、相手の立場も考えないといけないね」「何か行動をするためには、自分のためだけではなく、みんなのことも考えないといけないよね」**という意見も出された。授業の後は、電気を消す活動をしていた子どもも、とても満足そうな表情となっていた。

【活動②『４つのプロジェクト計画！』】　**再構築した自分の考えを表明（発信）する活動**

各プロジェクトで計画したことを実践した。海に掃除に行ったり、裏庭の掃除をしたり、でこぼこした場所の穴埋め、花を植えたりもした。でも、「自分たちだけが活動しているのでは地球は変わらない」という発言があった。そのなかで、子どもたちがどのように発信していくか、学級の中で話し合いが始まった。「私たちの作った模造紙、みんなに見てもらいたい」「調べた内容をクイズ形式にしたから、低学年のみんなにも楽しんでもらえると思うんだけど」「私たちがビーチクリーンに行った時の写真も貼ろうよ」「じゃあ、環境コーナーに設置してもらおうよ！そうすればみんなに見てもらえるよ！」と、みんな納得した様子で、環境コーナーを設置するグループに資料がどんどん集まっていった。

「私たちが卒業したら今年でこの活動は終わりかな」「それでは環境はよくならないよ」「今年だけで終わりにしてほしくないから、来年度引き継いでもらおうよ！」という子どもたちの願いもあり、卒業までの時間を使い、**環境コーナーのガイド役を配置すること、在校生に伝えていくことを考え、学校や地域、そして地球の環境をよくする取組みを発信していくことを検討していった。**



本活動を通して見られた子どもたちの変化の様子・その先の取組み・成果と課題

変化・様子

様々な計画を大胆に考えながらも、周りのことを考え、慎重にならなければという様子が見られた。「自分にとってはよいことでも、他の人にとってはよくないこともある」という経験は、児童の思考に大きな変化をもたらした。相手の立場に立って考えようとする様子が見られるようになった。

成果

普段から節電・節水はもちろん、学校のルールやマナーも守っていこうとする思いがより強くなった。クラスが一つの目標に向かって頑張ることで、友達と協力することの大切さを学び、誰かが困っていたら助けようとする児童が増えたように感じる。

自分たちで計画し、実践できたこと、環境に対して行動できたことを誇りに思い、「環境に関する仕事に就きたい。」「誰かを助ける仕事をしたい。」などと将来の夢につながった児童もいた。また、休日にゴミ拾いを行う児童や下校時に不要な電気を毎日消して帰る児童など、この活動だけではなく、継続して思いを大切にできた児童もいた。

課題

・各プロジェクトの話し合いで、指示待ちの児童をどうやって主体的に行動させていくか。
・各プロジェクトで進度が違うので、終わる時期がばらばらだった。今回は資料作成で時間調整ができた。
・話し合いを進める中で、担任が出るポイントと児童が進めるポイントを判断する難しさがあった。